

学力の概況

国語A

概況

学習指導要領における領域の平均正答率が、話すこと・聞くことを除いて、全国比とほぼ同等、府比では2～3ポイント程度高く、概ね基本的な国語力が身につけていると考えられる。

特に成果が見られた問題例

8三ウ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。適切な敬語を選択する。

全国比+6.7ポイント 府比+6.8ポイント

8五 行書の基礎的な書き方を理解している。作品の助言として適切なものを選択する。

全国比+3.5ポイント 府比+7.9ポイント

8二2・3 文脈に即して漢字を正しく読む。

課題が見られた問題例

8四2 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。

全国比-1.2ポイント 府比-3.3ポイント

正答の条件として5つの項目があり、すべての条件を満たして解答しているものが少なかったことが理由と考えられる。

国語B

概況

B問題は主として活用問題である。記述式問題が3問あり、本校正答率は府の平均は上回ったものの、全国平均からは下回る結果となった。このことから、記述式問題への課題が明確となった。

特に成果が見られた問題例

2一・二 質問の意図を捉え、適切な選択肢を選ぶ。また、話の展開に注意し、必要に応じて質問をする。

一全国比+2.7ポイント 府比+5.0ポイント

二全国比+2.9ポイント 府比+4.6ポイント

3一 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する。

全国比+2.3ポイント 府比+3.7ポイント

特に課題が見られた問題例

1三 目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く。

全国比-4.5ポイント 府比-3.9ポイント

この問題も正答の条件があり、それを満たす解答が出来なかったと考えられる。要旨を捉え、目的に応じた構成や内容の整理をして文を書く力が必要であると考えられる。

概況

数学的な技能に関する問題が全国平均より高いことから、基礎的な学力が身につけていると考えられる。

特に成果が見られた問題例

5 (1) 全国平均より 14.6 ポイント高い。これは、空間図形の授業を行う際に模型を利用し、実際に子どもたち自身がそれに触れ、イメージを持つことができたと思われる。

1 (2)～1 (4)の正答率は全国平均よりそれぞれ 10 ポイント以上高い。これは授業の始めに小プリントで復習を行い、基礎学力が定着していると思われる。

特に課題が見られた問題例

15(1)は全国平均より低い正答率だった。多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解しているかを問う設問であった。確率の問題の解き方だけではなく、根本的な意味を理解できるよう、知識・理解を養う必要がある。

概況

本校生徒は図形の領域がやや得意とされる。一方で、説明を求められる問題の無回答率は全国平均を上回る結果となり、このことから、記述式の問題への課題が明らかになった。

特に成果が見られた問題例

3 (2) 全国平均より 8.3 ポイント高い。このことから、グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する力が身に付いていると考えられる。

4 (2) 全国平均を上回っている。証明の一部を書き直す設問であったが、このことから、発展的に考える力が身に付いていると考えられる。

課題が見られた問題例

2 (2)、3 (3)は記述式の問題であったが、無回答率が全国平均を上回る結果となった。このことから、数学的な見方や考え方を養う必要がある。

概況

基礎的な問題の正答率は全国平均よりも高く、基礎的な学力が身についていると考えられる。また、無回答率は概ね全国平均より下回っており、積極的に問題に取り組む姿勢が見られた。一方で、論理的に考えて説明する問題に対して課題が見られた。科学的思考についての能力を養う必要がある。

特に成果が見られた問題例

2(2) 濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘する問題では全国比+16.3ポイント・府比+15.0ポイントであった。

5(1) 神経系の働きについての知識を身に付けているかを問う問題では全国比+16.5ポイント・府比+16.1ポイントであった。

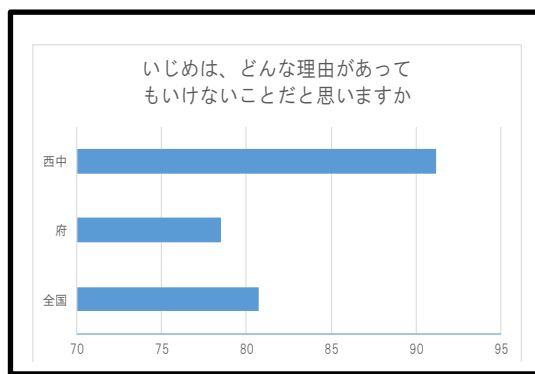
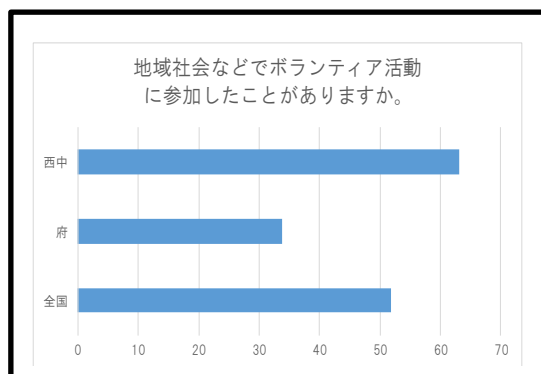
課題が見られた問題例

8(3) アルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができるを問う問題では全国比-7.3ポイント府比-4.5ポイント

9(2) 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する問題で全国比-5.4ポイント府比-2.3ポイントであった。

学習状況の概況

生徒質問紙より

**概況**

生徒質問紙には59問あるが、「家庭生活について」と「学校生活について」の2つに大別される。分析すると、多くの項目で肯定的回答が府・全国平均を上回っている。上のグラフは、特に西中の特徴として顕著に表れたものである。左上は「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」に「参加したことがある」と回答した割合であるが、全国比で11.4ポイント、府比で29.4ポイント高くなっており昨年以上に地域行事への参加状況が良好であることが見える。また、右上は「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に「当てはまる」と回答した割合が全国比で10.5ポイント、府比で12.7ポイント高く、「どちらかといえば、当てはまる」を加えると98%を超える生徒が賛同し、「当てはまらない」の回答は0%である。日頃の地道な取り組みの成果だと思われる。

特に成果が見られたアンケート項目例

- ・学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）
- ・家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している
- ・1，2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか
- ・今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する必要がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうとしましたか。また、理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。
- ・生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

特に課題が見られたアンケート項目例

- ・自分には、よいところがあると思いますか
- ・将来の夢や目標を持っていますか

調査結果を受けて

学校が重点的に取り組んでいくこと

① 学校・家庭・地域とのさらなる連携

学校・家庭・地域が一体となって子どもたちを育てていくというのが西中学校の最大の特徴です。この特徴を今後も活かした教育活動を実践します。地域の方の協力を得ながら「西中ゼミ」を中心とした自学自習力を高め、常に学ぶ生徒を育てていきます。

② 教員の授業力向上

生徒が主体的に学べるように、言語活動の充実やアクティブラーニングの推進を教員が心がけ、より質の高い授業が行えるように研究していきます。小中一貫・英語教育、特に ICT 教育については機器も一新され、わかりやすい授業づくりについて一層推進していきます。

生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

① 基本的な生活習慣の確立

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問では、肯定的意見が全国比、府比とも10%以上低く、非常に睡眠時間の不安定さが見られます。また、朝食を食べないで登校する人が、全国、府よりも多い結果になっています。規則正しい食事や睡眠をとり、自らを律しながら学習や運動に励んでください。

② 人とのつながりや感謝する心を大切に

体育大会や文化祭での取り組みを通して「自分には、よいところがあると思いますか」と自問自答してください。責任をもって取り組むことで周りから信頼される人間に成長します。また、周りをよく観察してください。みんなのために友達、先生、保護者、地域の方などたくさんの人々が君達を支えています。感謝するところも大切にしてください。

保護者のみなさまに協力してほしいこと

◇ 基本的な生活習慣の定着・継続的な学習習慣の定着への導き

会話やふれあいを通して、子どもたちの成長を感じ取りながら、規則正しい生活リズムが身につくようご配慮下さい。生活リズムがくずれると学習意欲が低下する傾向があります。「ダメなものダメ」と時には厳しく諭してください。また、SNSなど目に見えない人間関係にも注意をはらってください。